



戸袋の使い方の実演は、誰もがその構造と工夫に驚きました



福津市の子どもたちに藍の家の歴史と貴重さを伝えてきました



国有形文化財登録式典の登録プレート披露式（平成20年）

「藍の家」を中心とした津屋崎千軒のあゆみ

- 1901年（明治34年）・約200年前に創業した旧染物屋（紺屋）の上妻家の住居として、現在の藍の家が建てられる
- 1992年（平成4年）・建築後90年余り経過し、老朽化したことから取り壊されることに。しかし、その歴史的価値の高さと街並み保存のため保存活動が始まる
- 1993年（平成5年）・津屋崎町街並み保存協議会結成
- 1994年（平成6年）・「津屋崎千軒民俗館 藍の家」に名称決定
- 旧津屋崎町と街並み保存協議会が、藍の家保存・管理に関する協定書に調印
- 「街並み保存協議会」が「藍の家運営協議会」に名称変更
- 建物が津屋崎町に寄贈される
- 2002年（平成14年）・「藍の家運営協議会」と「津屋崎千軒いきいき夢の会」が統合。藍の家の運営は「藍の家部会」の活動となる
- 2007年（平成19年）・主屋と庭園の井戸屋形が国の登録有形文化財として文化財登録原簿に登録される
- 国の有形文化財登録記念コンサート「趙国良胡弓（こきゅう）の夕べ」を開催
- 2008年（平成20年）・NPO法人津屋崎千軒いきいき夢の会から「藍の家保存会」が事業を引き継ぐ
- 藍の家の土地を市が取得。藍の家保存会が市と連携し、国登録有形文化財藍の家の保存と地域交流を深める活動に務める
- 2022年（令和4年）・津屋崎千軒民俗館 藍の家百二十周年記念イベント開催
- 2024年（令和6年）・豊村酒造旧醸造場施設が国重要文化財に
- 2025年（令和7年）・旧玉乃井旅館が国登録有形文化財に



保存協議会の原点となった第1回学習会（平成5年）



藍の家の補習作業を行う原田活男さんと秦信男さん



節句人形展で集合写真を撮る保存協議会役員（平成7年）

藍の家

Fukutsu City
20th Anniversary



「藍の家」保存をめぐる
地元住民の奮闘と
津屋崎千軒への想いを未来へ

原田活男さん



柴田治さん

福津を率いたまちおこし



国重要文化財
「豊村酒造旧醸造場施設」
有形文化財（建造物）の重要文化財指定は福津市において初めての事です。

その後、原田さん、柴田さんの相次ぐ逝去によって、大きな舵取りを失っていた保存会に再び光をもたらしたのは、柴田さんの妻、富美子さんでした。「藍の家を文化財にするんだ」という治さんの意志を継いで自ら学び申請書を国に提出。平成19年、藍の家の主屋と井戸屋形が福津市第1号の国登録有形文化財の認定を受けました。現在は「藍の家保存会」と改名し、保存協議会発足当時から活動してきた女性を中心に津屋崎の活性化に取り組んでいます。令和4年には藍の家の百二十周年記念イベントが盛大に執り行われ、令和6年には、ともに津屋崎千軒の街並みを守り続けてきた豊村酒造が国重要文化財へ登録されました。津屋崎千軒は、先人たちの生き様とともに、今なおその価値を私たちに伝え続けています。

津屋崎千軒の価値を未来へ



「津屋崎千軒」は、明治時代、塩田と海上交易によって繁栄した津屋崎の様子を「人家が千軒もあるほどに繁栄しているまちだ」と表現されるほどの街並みでしたが、塩田の廃止とともに衰退。当時の面影をしのげる貴重な存在でしたが、とうとう上妻邸に解体の話が持ち上がります。その流れに抗い立ち上がったのが住民団体「津屋崎町街並み保存協議会（以降、保存会）」。

津屋崎人形師の原田活男さんが初代会長、柴田治さんが事務局長として「保存が実現できるかどうかは自分たちの強い意志とそれを示す行動だ」という信念のもと、何とかして津屋崎の豊富な資源、自然、歴史文化を子どもたちに残そうと専門家も交えた学習会をスタート。保存・活用を徹底的に話し合い、保存会の会員一人一人が知恵を持ち寄って街並み保存の必要性を呼びかけ、津屋崎町への陳情書や請願書の提出を繰り返しました。やがてその熱意は大きな地域の渦となり、社会現象を巻き起こします。活動は「スコミ」などでも大きく取り上げられ町内外からの反響や共感も味方に、平成6年、津屋崎町から上妻邸の保存が承認され、その4年後には全運営費を町が負担することが決定しました。地域の未来を想う人の情熱と使命感が町をも動かし、歴史的な出来事となりました。

「藍の家」保存をめぐる歴史



「藍の家」の保存活動は、住民の輪が広がり、行政をも動かす社会現象となって成し遂げられましたが、そこに至るもつと以前から津屋崎の自然と史跡を残そうと奮闘した、今は亡き多くのかたがたの生き様を無くしては語れません。原点であろう「暮らしを考える会」の魂が今の津屋崎の未来を切り拓いたと思っています。「藍の家」の活動は私にとって人生そのもの。そこに紡がれた先人たちの感性や想いが一緒に受け継がれることを願っています。

藍の家保存会初代会長
柴田富美子さん



藍の家保存会代表
古閑由美さん

「藍の家」は、多くのボランティアが、できることを持ち寄り、人の力で紡がれています。思い出深いのは藍の家の百二十周年祭。多くのかたにこの藍の家の活動の重要性を発信していただき、改めて残すべき人の想いが詰まった素晴らしい家であったと実感することができました。まちの核は歴史に色濃く残っています。このまちで愛されて育ち、そして誇りある歴史とともに生きることができれば、子どもたちの未来は大きく変わると確信しています。

